平成29年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	地域経営論(Regional Management)			授業コード	E046801
担当教員名	本村　裕之			科目ナンバリングコード	E31408
配当学年	3	開講期	前期		
必修・選択区分	選択	単位数	2		
履修上の注意または履修条件					
受講心得	出席状況を直接の評価基準とするわけではありませんが、遅刻と欠席による授業内容の把握の遅れは、そのまま、課題提出の困難さを招きますので注意してください。				
教科書	なし				
参考文献及び指定図書					
関連科目	社会調査法、まちづくりマーケティング、まちづくりマーケティング演習、観光ビジネス論、観光学入門、地域イノベーション論、データ解析A、経済統計A、経済統計B				

授業の目的	市町村を始めとする、地区、地域コミュニティ、NPO、市民団体等の地域主体に注目し、それらが果たす社会的・経済的・文化的な機能や価値について理解・再評価する。
授業の概要	「地域」を「経営」する、とはどういうことか、を常に考え続ける。 自治体も悠久の存在とはなりえない。指導者、為政者が誤った為政を行えば、その負担はそこに住む人々へと直接降りかかる。 全ての経済主体はその収支により存在を評価されるが、自治体も他聞に漏れない。適正な運営が行わなければ、「倒産」や「破産」を招いてしまう。 現状の我が国で、どれほどの自治体が「破産」の危機にあるか。健全な運営を行うためにどのような取り組みが行われているか。法整備はどのようになっているか。 その中で、今後社会に出ていく学生諸君が何を考えどのように行動しておくべきかを考える。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第 1 週 ： ガイダンス・イントロダクション 「地域」を「経営」するとはどういうことか。	復習を必須とする。また適宜課題を与える。
第 2 週 ： 持続可能なまちづくり 人口ピラミッドを改めて見直し、我が国の収入がどのようになっていくかを考えるところから始める。その中で2007年財政再建団体へ指定された夕張市の例を題材に持続可能性を考える。	復習を必須とする。また適宜課題を与える。
第 3 週 ： 財政力指数 地方交付税法付近の分配基準として使われている財政力指数だが、その算出方法や、現在の分布、各人の出身地のそれを確認し、自治体の財源の不安定さを理解する。	復習を必須とする。また適宜課題を与える。
第 4 週 ： 労働力の確保 人口減少社会に陥る我が国で、各自治体はその労働人口・労働力の確保に腐心している。それは同時に、財源となる税収の納税主体となるからである。1次的な目的は「学生の就職体験」ではあるが、2次的な目的「企業の人材確保」、さらに3次的な目的「税収財源の確保」として、それとは明示されないままにインターンシップが行われている。 「地域づくりの産学連携」としてのビジネスインターンシップの意味を考える。	復習を必須とする。また適宜課題を与える。
第 5 週 ： 第1期まとめ 第1期を振り返り、補足説明の必要な部分、要点の確認を行うとともに、当日指定するテーマに従ってレポートを作成する。	レポート提出

第 6 週 ： バブル崩壊からこれまでの日本経済 現在の自民党政権はバブル崩壊以降，所謂失われた10年後民間を中心に復活した日本経済をアベノミクスにより後押しいている。 その評価と潜在する問題点について考える。	復習を必須とする。また適宜課題を与える。
第 7 週 ： PPP(Public.Private.Partnership) 公と民のパートナーシップ。公と民間が協力・連携して公共サービスの提供を行うシステムが、新たな取り組みとして注目されている。そのシステムについて検討する。	復習を必須とする。また適宜課題を与える。
第 8 週 ： 資金調達 民間とは異なる、自治体の資金調達とその難しさとあり方について考える。	復習を必須とする。また適宜課題を与える。
第 9 週 ： VFM(value for money) 投入したお金が、どれだけ価値のある使われ方をしたのかと評価する。その評価の方法を考え方について学ぶ。	復習を必須とする。また適宜課題を与える。
第10週： 第2期まとめ 第2期を振り返り、補足説明の必要な部分、要点の確認を行うとともに、当日指定するテーマに従ってレポートを作成する。	レポート提出
第11週： 観光の地域に与える経済効果 地域への貢献度を考えた場合、域内調達率、すなわち財源となる地元に落ちる貨幣に着目するのは必然といえよう。観光の地域に与える経済効果について考えてみる。	復習を必須とする。また適宜課題を与える。
第12週： 地方創生 2014年12月「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が策定された。これまでの、モノ消費からコト消費への転換が提言された。そのあり方について考える。	復習を必須とする。また適宜課題を与える。
第13週： コト消費空間づくり 広域としてのDMO(Destination Management/Mrketing Organization)と各地域BID(Business Improvement District)との連携によるコト消費空間づくりの3要件と方向性について考える。	復習を必須とする。また適宜課題を与える。
第14週： 効果的なコト消費空間づくり 大分市のトイレンナーレや、トリックアートなどのテナントミックス×イベントミックスにみられる事業展開を参照しつつ、効果的なコト消費空間づくりのためのフローチャートを考える。	復習を必須とする。また適宜課題を与える。
第15週： 最終まとめ これまでの講義を通じて得たものをレポートの形で作成、提出。口頭試問を行う。	レポート提出
第16週： 期末試験は実施しない。	

授業の運営方法	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	
地域志向科目	カテゴリー Ⅲ：地域における課題解決に必要な知識を修得する科目	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	自治体を経済主体として理解し、その生存に必要な条件を考える。
【知識・理解】	経済主体としての自治体、その生存条件を理解する。
【技能・表現・コミュニケーション】	
【思考・判断・創造】	レポート作成を通じて、自分なりの視点でそれぞれの事例を評価する。

○成績評価基準（合計100点）			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	**期末試験・中間確認等（テスト）**	**レポート・作品等（提出物）**	**発表・その他（無形成果）**	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		**30点**		
【知識・理解】 ※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。		**60点**		
【技能・表現・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ】 ※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。				
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		**10点**		

（「人間力」について）

※以上の観点に、「こころの力」（自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力）と「職業能力」（職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力）を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	**評価の実施方法と達成水準の目安**
レポート・作品等（提出物）	完全な形での提出をすること。提出に際しては口頭試問を行い到達度を確認する。
発表・その他（無形成果）	